

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

321号

2017年11月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 「平和と統一のためのつどい」へのご参加・ご協力ありがとうございました 平和と統一のためのつどい実行委員長 高銖春(コウ・スチュン)

これほど長い間、余韻の残る取り組みがこれまでであったの分かりません。先月1日に大阪市生野区のKCC会館で開催した「10・4宣言10周年記念 平和と統一のためのつどい」から数週間が経った今も、その余韻に浸っています。

このつどいは7月に急きょ提案されました。それから紆余曲折を経て、最終的にコンサートとトークライブを中心とした屋内行事と定まったのが8月中旬。ビラ・ポスターなどの宣伝物が完成したのが、つどい1カ月前の9月1日でした。

短期間で地域への宣伝広報活動も熱心に行いましたが、機材の準備やアンサンブルの内容も終盤まで変更が相次ぎ、当日を迎えるまでソワソワする日々を過ごしていました。地に足のつかない心境は当日まで続き、会場の設営準備を終えても消えることはありませんでした。

しかし、つどいが始まるとそれまでの心配が反対方向へと大きくベクトルを転換させ、嵐のような感動を覚えるようになりました。

私が主催者挨拶を終えて席に戻ったころには満席状態となっていました。余裕をもって準備した120席以上の座席が足らなくなり、席を追加しても会場の後方は立ち見状態で、最終的に200人を数える人々が集ってくださいました。

それだけでなく、ゆしんさん→川口真由美さん→トークライブ→青年学生の声→アンサンブルと続くプログラムが参加者との一体感をつくり、その一つ一つの洗練されたステージに感動の輪が広がるばかりでした。

「私」と「あなた」と一人称・二人称でやさしく問いかけ、それぞれの歩みと重ね合わせて涙を

呼び起こしたゆしんさん。真正面から平和への思いをパワフルな歌にのせて訴えかけ、参加者の平和への思いをひとつに束ねた川口真由美さん。戦争の危機をつくっている原因が何かを、これまでの経過も含めて詳しく、かつ分かりやすく語ってくれた金昌五(キム・チャンオ)さん。活動しながら経験してきた喜びや辛さなどを初々しく語り、共感を広げた青年学生の3人。そして、すべてのステージからバトンを受けて、朝鮮半島の平和を希求する思いを、映像と歌で見事に表現した永久のりとキョレサラン。

繭(まゆ)から取り出された生糸が何本も重なり、強い絹糸が紡がれるように、ステージに立った出演者にひきつられて、参加者一人一人の平和・統一に対する思いが紡がれ、強く頑丈な一本の糸ができあがった3時間でした。

今回のつどいは、単に10・4宣言10周年を記念して開催したものではありません。10・4宣言で歌われた「平和」が大きく傷つけられている現在、そして、実際に戦争が起こりかねない将来に対する憂いが膨らんでいるからです。

トランプ政権は朝鮮半島近海で軍事演習を繰り返しながら軍事的緊張を高め、一触即発の状態が続いています。着実に「戦争のできる国づくり」を推し進める安倍政権が衆議院選挙で圧勝し、平和憲法の改悪をもくろんでいます。「平和」を希求する民衆の思いと乖離する東北アジアの情勢に「待った」をかけられるのは、この地域の主人である私たち民衆だけです。

「平和」の実現には困難な道が多いですが、今回のつどいで紡がれた糸をさらに広げる、大きなうねりをともに作っていきましょう！



▲主催者挨拶を行う高銖春実行委員長

今回、平和と統一のためのつどいでコンサートに出演して頂いた川口真由美さん、アンサンブルに出演して頂いた永久のり子さん、そして、つどいに参加して頂いた伊関要さんから感想文を書いて頂きましたので、紹介します。

## つどいを通じて知ったこと、 感じたことを多くの人に伝えたい 川口真由美

10月1日の平和と統一のためのつどいに参加させていただき、歌わせてもらえたことに感謝いっぱいでおります。本当にありがとうございました。



### ▲コンサートに出演した川口真由美さん

つどいも、交流会も身につまる、琴線に触れる思いを強くする時間でした。アンサンブルは涙があふれ、若者からのお話や金昌五さんのトークライブにとっても考えさせられました。反して自分の頭の中は、世間といわれる社会の「他人事、他人の痛みは他人のもの」のようなイメージが頭の中で回転しはじめ、ここで知ったこと、韓国で見てきたことを一人でも多くの人に知ってもらいたいと強く思いが込み上げてきました。

アンサンブルは、それらの感情もあわさって、かき回され、素敵な歌のしらべに涙を隠せませんでした。ちょうど私は8月15日のソウルでのデモや集会に参加し、集まっている人々の熱さや連帯集会の熱さを肌で感じ、韓国の過去にあった拷問の現場などを訪れるなどして、自分の無知の部分を埋めていくような作業もあったため、参加しながら、これまで3回見てきた8・15を回想したりもしていました。

韓国のデモで歌われる歌が、ここで歌われているのを見て、胸の奥になにか痛みのようなものが

刺さってきました、ここでの皆さんの想いや韓国のキャンドル革命を起こしてきた人たちの想いを知る人が増えてほしいと、胸に思いが刺さるような気持ちでした。

交流会で康宗憲(カン・ジョンホ)さんの「諦めなければ必ず道は拓く、諦めてしまえばそこから広がることはない」という言葉が、あらためて胸を打ちました。行動したいと思います。ありがとうございました。

## 特別参加ではなく、一緒に作ったという 誇らしい気持ちです 永久のり子

「いま、この時期だからこそ10・4宣言にあらためて光を当てるつどいを開きたい。そのつどいの中で歌を」という呼びかけを9月の初めにいただきました。文在寅(ムン・ジェイン)大統領誕生後、はじめての8・15に日韓平和連帯の団で訪韓したばかりで、そこで経験した韓国の人びととの出会いにも背中を押され、「ぜひ参加させてください」とお返事しました。



### ▲アンサンブルに出演した永久のり子さん

参加を決めた理由がもうひとつあります。

10・4宣言といえば、サインをした二人のリーダーがすでにこの世を去っておられることを思わずにられません。どんな思いでサインをされ、志半ばでどれほど心残りだったかと考えるとき、その歴史のバトンはつなげなければと思ってきました。そして今回の呼びかけを受け、盧武鉉(ノ・

ムン) 大統領からのバトンをつなぐのは文在寅大統領であると同時に、私たちでもあると、むしろ彼の背中を押すのは私たちであると思ったからです。

準備のプロセスには、たくさんのドラマがありました。まず、3人のメンバーが揃ったことによって「アンサンブル」のスタイルでの出演が可能になりましたが、毎水曜日の夜の練習は、周囲の皆さんの支えなしには到底実現しませんでした。歌に込める思いをより深く伝えるための映像の力も大きかったです。キャンドルデモをバックに私たちが歌うという演出や、韓国語の歌や演説の訳の挿入などの細かい工夫がなされた映像に練習にも熱がこもりました。そして、毎回練習後に開いた反省会で、それぞれがこのつどいをどのような思いで企画したか、最も伝えたいことは何なのか、などを語り合ったことが大きな力になりました。

私が初めて「アンサンブル」に参加させてもらったのは20年以上前のことですが、今回は「特別参加」ではなく「一緒につくった」という誇らしい気持ちです。同時に、私たちが目指す世界、私たちが求める統一された朝鮮のために、諦めずに、いまできることを積み重ねていくことの尊さをあらためて教わり、深く感動しました。バックの映像に映った闘いの歴史も、そのような一人一人の実践がつながりあって紡がれ、その歴史のなかに私も在る。そのことのすばらしさを、今後も「アンサンブル」をとおして伝えていけたらと思います。

## 10・4宣言10周年 平和と統一のためのつどい」に参加して 伊関要

私が参加した中でも今年最も感動した集会だっ

た。不覚にも感涙の渦に巻き込まれる結果となった。何に感動したのか。文在寅、盧武鉉両大統領とも韓国民主化闘争の戦士であり、民主化闘争が生み出した指導者であること。民主化闘争は苦難の朝鮮戦争をへて、光州蜂起から平和と統一を求め脈々と受け継がれた民衆闘争の成果だということ。これらのことが映像と歌と音楽で私の心を貫通したのだ。



▲多くの参加者に感動を与えたアンサンブル

「11月26日、80年目の南京」の集会PRと「大阪城のこま犬の正しい由来を書いた説明板設置を求めるインターネット署名」の呼びかけという極めて自己本位な集会参加の動機だった。

しかし、終了時には目頭を押え「平和と統一のためのつどい」一色に染め上げられた自分があった。感動のあまり交流会に参加したくなり、恐る恐る金隆司(キム・ユン)代表委員に「申し込みはしていないのですが交流会に参加してもよいでしょうか?」とお訊ねすると「来る者は拒まず、去る者は追う」との嬉しいお言葉。金隆司代表に背中を押され、参加させて頂いた交流会ではアピールまでさせて頂いた。感動的な集会を開催された韓統連の皆さまに敬意を表します。ありがとうございました。

## 2017年韓統連大阪本部 送年のつどい

日時：12月10日(日)午後5時30分 受付 午後6時 開会  
場所：KCC会館5階ホール(地下鉄「今里」駅下車徒歩10分)  
内容：2017年の主な情勢・活動を振り返る 他  
会費：2000円(お酒を飲まない方は1500円)  
主催：韓統連大阪本部 TEL06-6711-6377



10・4宣言10周年を記念して、韓青をはじめとする青年団体は、東京と京都で記念行事を開催しました。それぞれの行事の報告を掲載します。

## 祖国の平和と統一のための 青年学生キャンドルパレード(東京)

韓青では10月8日(日)、東京で10・4宣言発表10周年を記念して「祖国の平和と統一のための青年学生フットサル大会及び祖国の平和と統一のための青年学生キャンドルパレード」を開催しました。主催は韓青・朝青・学生協などが参加している6・15青年学生協議会で、今回は韓国から13年ぶりに6・15南側委員会青年学生本部のメンバーを招請することになりました。韓青が今年8月に行った故国訪問団の成果が、在日同胞による統一運動の中で活かされることとなったのです。

記念行事ではスポーツ交流としてフットサルを開催。優勝候補の朝大生チームに対して「統一チーム(南側代表団と青年学生協議会代表メンバー)」は平均年齢30歳以上。「統一チーム」が圧倒的に不利と思われましたが、予想以上に南側代表団が奮闘、ゴールを決めるなど善戦しました。結果は順当に2敗1分け(笑)でしたが、楽しく交流することができました。



▲新宿でキャンドルパレードを行う参加者

続けて、日本一の繁華街である新宿駅前ではキャンドルパレードを行いました。南側の青年学生たちとともに米国の戦争政策を破棄させ、朝鮮半島の平和と統一を勝ち取ろうと熱いメッセージをアピールして道行く多くの人々が立ち止り、注目されました。

終了後、全体で交流会を開催しました。南側も交えて統一への思いを語り合い、熱い連帯関係を

結ぶことができました。祖国を取り巻く情勢はいまだ厳しいものがありますが、こうして青年学生が先頭に立って状況を切り拓いていくことによって、一刻も早い祖国の平和と統一を勝ち取っていただきたいと思います。

## 10・4宣言10周年記念 統一ステージ 手を握ろう(京都)

10月9日(月・祝日)、韓青京都府本部と朝青京都本部、留学同京都本部で構成されるKyoto Onekorea Network(京都ワンコリアネットワーク)の主催で「10・4宣言10周年記念統一ステージ 손잡아보자!!(手をにぎろう)」が開催され、400席の会場が満席になるほどの大盛況でした。

コンサートは第1部と第2部で構成され、第1部では青年による公演が行われました。統一を題材にした劇を演じながら、途中でノレ(歌)や楽器の演奏を入れて、現在の青年層が祖国統一についてどのように考えているかを表現しました。



▲統一ステージ出演者全員での記念写真

第2部では、韓国の民衆歌手グループ「ウリナラ」によるコンサートが開かれました。会場にはウリナラの曲は知っているけど実際に生演奏で見たことはなかった人や、このコンサートで初めて知った人もいましたが、民謡なども交えて全員が楽しめる内容でした。最後は会場全体を巻き込んだフィナーレで幕を閉じました。

韓青京都府本部は第1部のサムルノリに出演しました。朝青・留学同との合同サムルノリで、本番前の1ヶ月間練習を積み重ね本番を迎え、大成功を収めました。

## 80年光州民衆抗争における

### 光州市民の闘いについて学ぶ 韓統連生野支部人物歴史学習会

韓統連生野支部主催の「人物に見るウリ歴史学習会第6回 80年光州の市民たち」が10月15日(日)、韓統連生野支部で開かれた。

学習会では、金昌範(キム・チャンボム)韓統連生野支部代表委員が光州民衆抗争に至る経過を報告するとともに、光州民衆抗争は、初めは学生中心だった闘いが、しだいに光州市民まで拡大して戒厳軍と激しく闘ったことが報告された。そして、金代表は光州民衆抗争が残したものとして、△米国は韓国の民主化の友邦ではなく、抑圧者であったこと、△歴史を切り開く主体は民衆であることなどが訴えられた。

報告後は質疑討論が行われ、学習会は終了した。

## 粘り強い憲法改正反対、

### 辺野古新基地建設阻止の闘いを！

#### 戦争あかん！基地いらん！関西のつどい

安倍政権による憲法9条の改正に向けた動きが進む中、「2017年戦争あかん！基地いらん！関西のつどい(主催：同実行委員会／大阪平和人権センター他)」が10月21日(土)、エルシアター(大阪府中央区)で開かれた。

つどいでは、大阪平和人権センター理事長の米田彰男さんが開会挨拶を行った後、ジャーナリストの斎藤貴男さんが講演を行った。斎藤さんは講演を通じ「安倍首相は北朝鮮のミサイル・核を利用して憲法改正を進めようとしている」と指摘しながら、「総選挙の結果次第では、憲法改正の手続きを加速化させる危険性がある。憲法改正を許さない継続した闘いが重要だ」を訴えた。

次に、沖縄平和センター議長の山城博治さんが特別報告を行った。山城さんは現在裁判闘争中であることを述べながら、「私は意見陳述で、辺野古新基地建設反対を訴えて座り込みをしている住民などに、機動隊が殴る蹴るの暴行を加えている。本当の犯罪者は誰なのかと裁判長に訴えた」と述べ、参加者から大きな拍手が送られた。

また、これまでの日朝問題についても「安倍首相はトランプ政権に追従して、朝鮮に制裁と圧力

だけを加えているが、圧力ではなく“対話をしよう”と行動しなければならない。そうすれば必ず日朝間の問題は解決へと進む」と主張した。



▲特別報告を行う山城博治さん

そして「来年沖縄では知事選挙がある。翁長知事の当選を勝ち取り、私たちの団結した力で新基地建設を阻止しよう」と訴えた。

その後つどいでは、朝鮮高校無償化連絡会の金星姫(キム・ソビ)さんをはじめ各団体からの連帯挨拶が行われ、最後に、しないさせない戦争協力関西ネットワーク共同代表の中北龍太郎さんの閉会挨拶、つどい実行委員会事務局長の垣沼陽輔さんが「団結がんばろう!」を行い、関西のつどいは終了した。

## 戦争法・秘密保護法の廃止を訴える

### 戦争あかん！ロックアクション

戦争法及び秘密保護法の廃止を訴え、毎月6日に開催されている「戦争あかん！ロックアクション」が10月6日(金)、新町北公園(大阪府西区)で開かれた。

ロックアクションでは最初に集会が開かれ、主催者挨拶が行われた後、崔誠一(チェ・ソンイル)韓統連大阪本部事務局長が朝鮮半島情勢についてアピールを行った。崔事務局長は「朝米間で軍事緊張が高まっているが、根本問題は米国の朝鮮に対する敵視政策であり、敵視政策を止めて、朝米対話を行わなければならない」と訴えた。

続けて、反原発・反戦平和団体からアピールが行われた後、参加者は御堂筋を通るデモ行進へと移り、道行く人々に「戦争法・秘密保護法の廃止!」「安倍政権は退陣しろ!」などを訴え、ロックアクションは終了した。



## ◆DVD紹介◆

## 「平和と統一のためのつどい」ライブDVD

定価：500円

10・4宣言10周年を記念してKCC会館(大阪市生野区)で開催された「平和と統一のためのつどい」のライブDVDが販売されることになった。

オープニングを飾るのは、在日韓国青年同盟のメンバーによる若さあふれるサムルノリ。そして、在日三世のシンガーソングライターゆしんさんのコンサート。生命(いのち)の賛歌をテーマに、ピアノ演奏と情感豊かな透き通った歌声で聴衆を魅了した。続いて、平和のために歌い続ける闘うシンガー、川口真由美さんのコンサート。力強いギター演奏と平和への熱いメッセージが込められた歌の数々は聞くものに勇気と力を与えてくれた。ゆしんさんとのジョイントも見ごたえ十分だ。

「トークライブ」では、金昌五(キム・チャンオ)さん(韓統連青年学生育成委員長)が「朝鮮半島に迫る戦争の危機について考える」をテーマに、ホワイトボードを活用して現在の情勢と今後の展望について解説してくれた。多くの参加者から「本当にわかりやすかった。もっとたくさんの人に聞かせたい」との声が寄せられた。「青年学生の声」では在日同胞青年学生団体の代表から祖国統一に対する率直な思いが語られた。

最後を飾ったのは、永久のり子さん、許景民(ホ・キョンミン)さん、金昌範(キム・チャン

ボム)さんによるアンサンブル「平和と統一の新しい時代へ」。オープニングは、第2回南北首脳会談の記録映像。盧武鉉大統領が最も愛した曲「常緑樹」の歌声を背景に盧武鉉大統領の半生と第2回南北首脳会談の様子がスライドショーで映し出される。一転して峻厳なBGMを背景に「朝鮮戦争」の全貌が映像で表現される。戦争の廃墟

から美しい祖国を取り戻していく過程が「イムジン河」の歌と祖国の美しい山河の画像で表現される場面では、そこですすり泣く声が聞かれた。

光州民衆抗争が、歴史映像と「五月の歌」のピアノ演奏で鮮やかによみがえる。続いて光州以降の南北海外同胞の闘いが、スライドショーを背景に「君のための行進曲」の力強い合唱で表現される。そ

して、光化門広場を埋め尽くしたキャンドル革命の圧巻の映像と歌「これでも国なのか」。憲法裁判所による大統領罷免審判に聞き入るセウォル号遺族の姿が胸を打つ。エンディングは、平和と統一に向かう朝鮮民族の歴史映像を背景に「流れるイムジン河」の大合唱。感動のフィナーレに拍手が鳴りやまなかった。

「この日の感動を一人でも多くの人と分かち合いたい」との思いから、ライブDVDが販売されることになった。

一人でも多くの皆さんに手にしてほしいと思う。



## 編集後記

今号の自主(チャジュ)は、10・4宣言10周年特集として、大阪をはじめ東京・京都で取り組まれた10・4宣言10周年行事について紹介しました。

朝鮮半島情勢は依然として軍事的緊張が高まっており、6・15共同宣言、10・4宣言の履行には至っていませんが、早い時期に必ず両宣言が履行されるよう運動を継続しましょう。(ソン)